

議 長 日程第1「一般質問」を行います。

きのうに引き続き、一般質問を通告順に行います。受付番号第8号、平野由里子君の一般質問を許します。登壇願います。

1 番 平 野 おはようございます。議長のお許しを得ましたので、通告どおり質問させていただきます。受付番号第8号、質問議員、第1番 平野由里子。件名、投票率を上げるために今できることは。

要旨、9月の町長選挙における投票率は60.04%でした。過去の町長選挙を見ると、候補者数の違いはありますが確実に下がっています。町議会議員選挙においても同様で、国政選挙ではさらに低い傾向です。投票率が下がると、選挙結果が民意を反映していると言えなくなるおそれがあります。また、関心を持つ人が減るということは、協働のまちづくりも進めにくくなるということです。そこで、次のことをお尋ねします。

(1) 選挙に際して、移動投票所を導入するお考えはありませんか。

(2) 若い層の啓発のために、投票済証明書のデザインを工夫してはいかがでしょうか。

(3) 日ごろから町政に関心を持ってもらえるよう、町民カレンダーをつくるお考えはありませんか。

以上です。よろしく申し上げます。

町 長 皆さん、おはようございます。定例会2日目、よろしくお願い申し上げます。

それでは、平野議員の御質問に順次お答えをさせていただきます。

まず初めにですね、選挙の執行については、選挙管理委員会が所管をしておることからですね、この場におきましては、私の考えや感じたことについて述べさせていただきますことを御了承いただきたいというふうに思います。

最近の選挙の投票率でございますが、平野議員の御指摘のとおり、さきの町長選挙においては、今回の投票率がですね、60.04%ということになっております。過去の選挙投票率と比較しますとですね、今回、この町長選挙において18歳へ引き下げがなかった場合にはですね、60.18%になります。それと同様に比較しますと、4年前の平成25年が66.47%、さらに21年の選挙においては79.70%という結果でございました。国政選挙においても同様に、選挙ごと

に下落傾向で、先般に行われました衆議院議員選挙では58.30%、これを18歳に引き下げがなかったというふうに仮定すると58.54%となり、それと同様の要件で比較いたしますと、さらに前回は平成26年になりますが59.22%、平成24年では65.29%と、同様に低下しており、政治離れが投票率の低下につながってきているというふうに感じておるところでございます。

そこで、さきの町長選挙並びに衆議院議員選挙の投票について分析をしてみますと、18歳・19歳の有権者の投票では、町長選挙では全体の53.7%、衆議院議員選挙では47.95%となり、約半数の方が投票されたこととなりますが、もっと上げる必要性を感じております。また、20代の投票が、各投票区で軒並み低い結果となっております。年代別の投票率は、町長選挙では全体で33.98%、衆議院議員選挙で35.94%と一番低く、年代が上がるにつれて投票率も高くなる傾向でございます。町長選挙で60代が73.89%、70代では79.16%となっており、衆議院議員選挙においても同様な結果となっていることがわかりました。

さて、御質問の1点目でございます移動投票所の導入に関してでございます。近隣市町では、箱根町さんが町議会議員選挙並びに衆議院議員選挙で導入されていますが、この移動投票所は、移動期日前投票所の巡回ということでありませう。箱根町さんは面積も広く、山間地で投票所までの距離が長い、また移動が困難などなどの理由により、投票したいができないといった理由も考えられたことから、町民の利便性向上と投票率向上のために、移動期日前投票所を設けたと聞いております。箱根町さんでは、この移動期日前投票所を町内3カ所で2回ずつ実施されたそうですが、その状況によりますと、利便性からこれまでも投票をしていた方々の投票が多かったということではありますが、全体の投票率としては前回は下回ったということでございます。初めての試みであったことや、その周知にも時間が不足した結果であったということでもあります。これを継続していくことで、移動期日前投票所の定着を図り、若い年代の方々も含め、町全体の有権者の投票行動につながるようになるのではというふうに私も感じたところでございます。

また、この投票所にかかる経費については、投票管理者、立会人の人件費な

どが主なものでございまして、約16万円ほどの経費ということでありました。今回の松田町における町長選挙の投票分析結果からは、20代の投票率が非常に低い結果となり、これらは全国的に同じような傾向であり、分析結果からは有権者の投票行動までは把握できませんが、移動期日前投票所を行うことで全体の投票率を底上げするには一つの手段として効果が見込めるというふうに感じたところでございます。

このようなことから、この効果を得るためには、情報発信をこまめに行い、事前周知を徹底し、有権者の利便性を最大限に生かした場所の設定や、公正・適正な選挙執行ができるよう、移動期日前投票所の導入を含め、選挙管理委員会にて研究していただければありがたいというふうに思っております。ちなみに、地方選挙における移動支援に要する経費については、そのかかる経費2分の1を特別交付税で措置していただけることは確認しております。

次に、2点目の投票済証明書のデザインの工夫についてでございます。投票済証明書は、会社などの勤め先に対して投票をしたことを証明するため、選挙管理委員会が発行しているということがこれまでの仕組みでありました。しかしながら、最近では投票率の向上などの目的から、秦野市商工会では独自の取り組みとして、飲食店との連携し、投票済証明書を持参すると飲食の割引が受けられるといった仕組みを取り入れられているようです。また、開成町さんでは、町のシンボル「あじさいちゃん」を入れた投票済証明書を発行していると聞いております。開成町ブランド事業の中で取り組んでいると聞いていますのでございます。デザインを工夫することで、記念品になったり本のしおりとして利用できたりするもので、このようにほかの事業と連携することで町の宣伝にもつながると考えます。しかしながら、公職選挙法では、買収及び利害誘導罪という罰則が規定されておりますので、このような法律に抵触しないことが絶対条件となるようです。いずれにいたしましても、先ほどお答えをさせていただいたように20代の投票率が最も低く、投票率の低下の一因となっておりますので、選挙管理委員会にて投票率向上策を御検討いただけたらというふうに考えております。

次に、3つ目の町民カレンダーの作成についてであります。いわゆる年間カ

レンダーに、町の催し物や健診などといった年間のスケジュールが記入されたもののことだと察します。町では、現在、ごみカレンダーと健康カレンダーを発行しております。健康カレンダーにつきましては1種類となっておりますが、ごみカレンダーにつきましては自治会別に8種類となっております。これらを統一して、さらに事業等を加え一つのカレンダーに表記することは、合理的で町民の皆様がわかりやすくなることと考えております。ただ、町の祭り等や行事につきましては、観光まつり、若葉まつりのように毎年同じ日や同じ曜日で開催され、日程が決定しているものはよろしいのですが、そのほかの祭りといったしまして、例えば、桜まつり、ロウバイまつり、各種事業、講演会などにつきましては、関係経費が予算化された上で協議会や委員会を開催し、日程を決定するものが多く、カレンダーを発行しますと、今のような12月の段階で来年度の事業日程が決定していないものが現状では非常に大半を占めているということでもありますので、その点の事前調整をしっかりと行う必要性があります。関係諸団体の皆様方と、しっかりと意見交換をしたいというふうに考えております。

そこで、この件は少し時間を要することから、当面の間は以前から御指摘をいただいておりますホームページのカレンダー機能の充実を図ることを進めるように、せんだっても指示したところでございます。今後、ホームページを見られない方や、より一目でわかりやすいカレンダーは、町の事業を周知する方法の一つだと以前より考えておりましたので、関係者の皆様方と調整を図ってまいりたいというふうに考えております。来年度予算編成に向けまして、日程や表示方法、広告欄を設け、費用の捻出をするなどさまざまな課題について検討し、取り組んでまいりたいというふうに考えております。以上でございます。

1 番 平 野 ありがとうございます。ちょっと、まず、3番にはなっていますが、町民カレンダーのほうから少し確認でお聞きいたします。

今のお答えの中では、非常に前向きなお答えということで期待をしております。私も、ごみカレンダー・健康カレンダーというのが分かっているというのがもったいないなど、ちょっと思っていました。ただ、ごみに関しては、地区によって違うということで、それをどんなふうに統一の中に入れていくのかと

というのは、また、ちょっと大変なことなのかなとは思いますが、ぜひ検討していただきたいと思います。開成町がね、やはり、とてもきれいな、やはりあじさいちゃんが毎回入ってるきれいなカレンダーを、町民カレンダーとして発行してまして、よく町民の方からも松田はこういうのないと聞かれることがこのごろふえてきましたので、どうかなと思って、ちょっと今回取り上げてみたんですけども、本当に、多分あれはかなり予算もかけているかなんていうふうに思うので、なかなか予算化も難しいかもしれませんが、ぜひ、前向きにというふうに思います。今、ホームページのカレンダーのほうの充実を先行するというようなお答えだったので、それは本当にぜひぜひ急いでほしいなというところです。

ほかの町でもちょっと調べてみたら、あじさいちゃんほど、何というか、お金をかけたり、カラーできれいではなかったのですが、庄内町というところが、広報の裏面に、毎回広報の裏面に付けているというところがありまして、それはもう、広報もなんかちょっとモノクロ、3色刷りぐらいかな、余り全面カラーじゃなかったみたいなんですけど、一番裏に縦型で15日ずつですね、1から15日、16から30日と、縦型にもうすごいシンプルに、そこに、その月わかっている行事とか健康のそういうこととか、みんなこうばあっと出ている感じで、こういうシンプルなものでも非常にわかりやすいなというふうに思いました。やっぱりその町も、広報自体がやっぱりPDFで見れるようになっていたので、このカレンダーの部分もPDFになっているというような形で、本当にいきなり開成町のようなすごいお金をかけなくても、そういった工夫はできるのかなというふうな気がします。ぜひ、よろしくをお願いします。

そして、ここでちょっと私も東川町、視察に行かせていただいた北海道の町のことをちょっとお話ししたいなと思ったんですけども、ここはきのうも小澤議員が取り上げていらっしゃいましたけども、写真のまちづくりというのを30年来やっているということで、いろいろな大きなイベントなんかもやっていて、それはとてもいきなり松田がというわけでは全然ないんですが、この発想がね、写真のまちづくりを始めるに当たっては、やっぱりかなり反対のね、方もいられたようなんですが、発想の説得した言葉としてね、写真写りを意識す

ると、町も人も美しさを意識するというようなことを言われていたり、あと、よい写真を撮ろうと思って町のよいところを一生懸命探すというようなことが言われていたりして、すごくシンプルだけど説得力のある話だなと思って聞いていたんですね。

松田でも、ついこの間、観光協会が主導でしょうか、写真部が設立されていたんですね、プロのカメラマンの指導も入るといようなことなので、東川のようにまねして、今から写真のまちづくりをしろということは言いませんけれども、せっかくそういった動きがあるので、写真部の呼びかけが、あなたの写真と一緒に松田をプロモーションしようといような呼びかけが書いてありまして、とてもいい姿勢だなと思うので、こういった写真、きれいに撮れたらそういったものを使っていくというのが、ちょっとおもしろいかもしれないと思います。写真部でなくても、町内にはアマチュアのカメラマンが結構いらっちゃって、文化祭でもすごくきれいな写真を展示されていたんですね。城山の写真クラブかな。何かそういったものもありますので、ぜひ、プロに頼んでお金を使うというよりは、町内のそういったせっかくいい写真があれば、ぜひ使っていただきたいなと思います。それは、先ほどの投票済証明書のデザインなんかに、もしかしたら使えるのかなという気がしました。3番に関してはそういうことで、前向きのお答えということでお願いします。

ちょっと1番、2番のほうに戻らせていただきますけれども、非常に詳しい数字を教えていただいて、私も年代別のところがとても気になっていたもので、再質問で言おうかななんて思ったらちゃんとききましたので。やはり気になるのは、18歳、19歳も低いけれども20代、すごい低さでちょっと驚きました。これは本当に大変なことだなと思うんですが、一概に原因をね、わからないかもしれませんが、町側のほうは原因が、20代が低い原因が何だというふうに想像されているか、もしお考えがありましたらお聞かせください。

総務課長 私も選挙管理委員会、若いときに9年ほど勤めておりましたけれども、そのときからですね、やはり若い方々、20代、30代、40代、若い方々の投票率というのは確かに低かったです。これは、過去から恐らく全国的にもそうなんでしょうけれども、過去からやはりそういった傾向にあるといようなところだと

思います。こういう言い方をしては失礼なのかも知れませんが、やはり、選挙の魅力というか、選挙に出られる方々のやっぱり魅力というのがあるのかなというのがありますし、やはり先ほど町長から答弁させていただいたように、全体的なことを考えると、やっぱり政治離れというところが顕著になってきているのかなというのは感じているところです。

そんなところで、先ほど申しましたとおり18歳、19歳、引き下げになった中で、そういった学生たちについては比較的選挙管理委員会としては高いほうなのかなというふうに感じております。そういった中で、やっぱり20代、30代というところが30%前半というような投票率になっているというところで、これは全国的な趨勢なのかなというふうにも感じてますし、そのようなことでちょっと感じているところでございます。

1 番 平 野 事実として若い人は昔から低かったというようなことはわかりましたけれども、原因としてはやはり魅力の不足、それから全体の政治離れというようなことで、やっぱりそのぐらいしかちょっとね、想像ができないなという気がします。私もずばりの原因はなかなか、やはり選挙よりも楽しいことがあるとかね、遊びに行ってしまうとか、そういうことぐらいかなというふうに思います。ただ、やっぱり全体の投票率がじわじわ下がるという原因は、やっぱりこの若い人が、行かない人がどんどん大人になっていくわけですから、それがある時点で、やっぱり子育てなんかにかかわる時点で、やっぱり選挙って行かないやなみたいに、ちょっと思ってくれるような方もいると思うので、そういう人たちが少しはふえても、もう行かないことがデフォルトになっている層が大人になって、そして全体の投票率が下がってしまうという、これなのかなと、ちょっと悪循環のことなのかなというふうに私は感じています。なので、とてもこれは大きな問題になるなというふうに恐れているんですね。

例えば、想像してほしいんですけども、国政でも町政でもいいんですが、例えば100人有権者がいるところで50人投票に行きましたと。結果が26対24だったと。26で勝ったほう、それは100人のうちの26人なので、それが民意を反映していると言えるのかというのが、やっぱりだんだん疑問になってしまいますね。これは本当に町政じゃなくても国政でも本当にそうなんです、そ

うなると、やっぱりこれは一つの民主主義の危機という、大きな問題としてはそうになってしまうので、非常にリスクとしてこれは早く認識をして、ちょっと対応しなきゃいけないんじゃないかと。

先ほどおっしゃっていたように、これは法律がかかわってくることで、国がらみのことですから、町でできることはそんなに多くはないなというのは私もわかっているんですが、でも何か町でできることがないかと思って、問題提起のために今回こういうふうに取り上げさせていただきました。というのは、やっぱり松田は協働というのを、今回の自治条例でも取り上げているし、総合計画の中でも協働のまちづくりをうたってますし、やはり関心が薄くなるということは協働もやりにくくなるということと本当に同じですので、そういう意味で取り上げました。先ほどの答えの1番の中では移動投票所ということの可能性で、印象としては否定はされなかったなというふうな思いなので、これは前向きに考えていらっしゃるといふふうには受け取ってよろしいんじゃないでしょうか。すいません、確認です。

町長 先ほど答弁でもお話ししましたけれども、箱根さんがやられてて、山口町長さんから大分いい手応えがあったという話を聞いております。どうしても、行政側で言うと、二重登録とか投票がとかっていうようなことがあるので、そういった、ちょっとシステムチック的なところを再度箱根町さんと確認をしてですね、やって、それでも本当に我々のところでシミュレーションしてできるのであれば、私自身は導入したほうがいいと思ってますし、今、平野議員からも御指摘のとおりですね、本当に投票率が低い中で町民の方々の民意を受けたかということ、そのときに選択を受けた人がどう捉えるかですけどね。私自身は、「ううん」と思うところもあります。「ううん」というところはいろいろ括弧書きがいろいろなことがありますけれどもね、そういったことがありますから、一人でも多くの方がですね、投票行動を起こすといったところは、町の何ですかね、動いてる活性化だとか思いだとか、そういったものの数字としてあらわれるのではなかろうかなと思ってるので、その辺の研究をしっかりと上です。やってまいりたいというふうには考えてます。以上です。

1 番 平 野 ありがとうございます。シミュレーションとかね、してみて、可能ならばや

ってみるといようなお答えだというふうに了解いたしました。ぜひよろしく
願います。ただ、箱根町のことを聞いてみると、これは、今回の場合
は周知も余り足りずに、全体の投票率は下がってしまったと。これまで行って
た人が行ったのではないかという分析が出たということだったので、やはりそ
れだけでは全然足りないなと思いますが、一つでも何かその手段を試すとい
うのはいいかなと思います。それから…。

町 長 私の意見は、あくまでも私としてはということなので、その意見をとって
もらって選挙管理委員会さんがどう判断するか、また別の問題ということだ
け御理解いただきたい。

1 番 平 野 わかりました。ごめんなさい、本当この問題取り上げるのにね、やっぱり選
管なのでちょっとね、どうしようかなと思ったんですが、やっぱりどうしても
思いましたものですから。

それから2番の投票済証明書というようなことですが、知らない方がすごく
多いということで、私はこのところ数年取らせていただいています。投票に
行ってこういう紙を受付で証明書をくださいと言うといただけます。これは本
当に、一番最初これを言ったとき、受付の側でも驚かれるという感じで、えっ
という感じで。私はこれは何で取り始めたのかというと、先ほど、町長のお話
の中に秦野で飲食店がサービスをしているというようなことをおっしゃって
たんですが、秦野でもやってるんですが、全国的にもそういう動きがあります。
名前が「選挙割」とか、それからちょっと長い名前なんですけれども、「未来
は僕らの手の中にプロジェクト」、通称「みらぼく」とか、それから「選挙で
お得」とか、何か名称が地域によってちょっと違うんですが、インターネット
で引けばどの地域か、自分の近くにどんなお店があるかというのがわかります。
これを見せて、そうするとお店が何かしらのサービスをしてくれるという、そ
ういうもので、お店によってそれは全然内容は違って、ドリンク1杯サービス
とか、飲食店じゃなくても、例えば粗品が鉛筆1本とかね、何かそういうお店
によって全然違う。あと、例えばライブなんかもそれで行けたりとか、おもしろ
いところでは、何かの教室の体験はゼロにするとか、全体の初回が半額にな
るとか、いろんな参加する店によって自由なサービスを設定できるので、じわ

じわとこのあたりでもふえてきているというシステムです。

本来はね、こんなことしないで選挙に行くのが普通で、本当は本当は正しいんですけども、だからこれは対症療法だとはしか言えないんですけども、どこに入れろとかそういうことは絶対言わないという前提で、そういうサービスが全国的にじわじわとふえている。そういうことで、私もそれに気がついてからはこれを必ずいただくようにして、実際に整体、半額で行ったりとかしました。これを若いまだ独身の方は、やっぱり余りそれでもなかなかあれなんですけど、子育て中の方なんかはこういうシステムがあるんだよと言うとおもしろがって、じゃあ今度私も取ってみようとかいうふうに言ってくれる方がすごく多いです。なので、少し啓発にはなるのかなというような気がしています。これが、松田ではわら半紙に印刷した、とてもシンプルなものなんですけど、開成町では、この名刺サイズで、そしてきれいなあじさいちゃんがついている、そういうカードになっているということなんですね。これも開成町の町民が、こんなデザインしたらいいんじゃないというのを何か提案したそうで、それが通ったというふうに聞いております。

あと、おもしろいところでは横浜市なんかも割とシンプルなんですけど、しおりのような形状で、選挙のたびに色を変えてある、いわゆる厚紙とか画用紙みたいな素材ですね。だから、別に写真も何もない、ただのこういう文書…文書というかいついつ行きましたみたいな、それだけなんですけど、ちょっと厚紙なのでしおりにもなるとか、そういうしおりタイプがすごく多いです。ほかのところを見ていると。

おもしろいなと思ったところが、岐阜県の関市なんですけど、これは選挙パスポートというのを発行していました。100回分の何か日付を押す欄なのかな、何か100回分それがつくってあって、何かどうもここは若い人がチームをつくって「IKOMA Iプロジェクト」というプロジェクトを展開しているんですね。若い人が若い人に呼びかけるというプロジェクトなようです。成人式で呼びかけてみたりとか、自分たちでローカルテレビのCMをつくってみたりとか、お祭りに参加してみたりとか、中学生に対する出前授業に行ったりとか、大学で模擬投票をしてみたりとか、もちろんフェイスブックのページもつくって

るというようなことで、ここはとても若い人への啓発というのを工夫しながらすごく展開しているというところで、ぜひちょっと調べて参考にさせていただきたいと思うんですが、こういったパスポートみたいなことがあり得るんだなというのがちょっとおもしろい。そのパスポートには100回分の欄と、それから選挙豆知識、それから日本国憲法全文みたいな、そういうふうな中身らしいんですが、こういったことも考えられると思いますので、ちょっとね、この、これだけでは何となく寂しいなという気がしますので、ぜひ、デザインを工夫していただきたいと思っています。20代、30代にできればアピールできるように。ただ、これも選管がそれをこういったサービスがありますよみたいなことを選管が言ったりするのはいけないということでしょうか。

総務課長 御意見ありがとうございます。いろいろな参考にさせていただきたいというふうに思っております。まず、開成町さんのほうなんですけれども、名刺サイズであじさいちゃんを入れた、記念になるのかどうかわかりませんが、選挙ごとに何かいろいろ変えているようです。それは、開成町のブランディング事業の中で委託されている業者さんのほうにお願いしてですね、毎回、選挙ごとにですね、名刺サイズのものをつくっていただけるということで、経費的にもですね、2,000枚で何か1万円ぐらいでできるということで、相当安価で実行できるなというようなところはちょっと参考にしたいなというふうに思っています。

また、今、議員さんから御意見いただきました関市ですか、そちらのほうのいろいろな取り組み、初めて聞きましたので、その辺を参考にしながらですね、選挙管理委員会の中に…委員さんのほうにですね、お話をさせていただきながら、やはり選挙管理委員会としても、やはり選挙啓発というのは大事な分野でございまして、今、明るい選挙推進協議会の委員さん、40名近くおりますけれども、やはり御高齢の方が多く中でですね、広報、たすきをかけた広報等でしか啓発が行われておりませんので、こういったところを参考にしながら、いろいろなところから啓発をさせていただきたいというふうに考えております。

1番平野 ありがとうございます。ぜひ、このあたりも前向きに取り組んでいただければと思っております。この、今の移動投票、それから投票済証明書のデザイン

化、これらは取り組んでほしいですが、やっぱりこれはどうしても対症療法ということになってしまいます。この若い層にどうやって選挙あるいは政治そのもの関心を持ってもらえるのかというのは、もうこれは本当に国レベルで考えなきゃいけないことなので、なかなか単独で町ができることは少ないんですけども、例えば出前講座というような形もあり得るのではないかと思うんですが、これもやはり開成町あじさい講座という出前講座をやっていて、町民が5人以上集まれば町長でも、それから町の担当課でも呼べると。関心のこの分野の話を知りたいというと呼べるという、そういうシステムなんですけど、町側からもメニューを用意していて、こんな話をできますよというメニューがだあつとあるんですけど、その中にやっぱり選挙、やさしい選挙の話というメニューがありました。こういった出前講座もいいかと思います。でもね、これもあくまでリクエストがなきゃ出動しないので、これも対症療法といえ言える。それから、川崎市も出前講座をやっています。これは中学校の生徒会の選挙を手伝いに行くというような、そういう形態で模擬投票をしているようです。それから、あと保土ヶ谷区は子供たちの給食のメニューを決める模擬選挙、それから区民まつりに選管のブースを出して啓発している。こういったさまざまな機会を捉えて、選挙それから自分たちで選ぶってどういうことかとか、そういうことを本当に何だろう、本当にもう細かい、身近なところから何とかわかってもらいたいという、そういう努力をされているところがちらほらあるので、ぜひ、参考にさせていただきたいなと思っています。

私、本当にこれは大きな話になってしまうんですが、ここのところ、ちょっとこういう本を読んでいまして、スウェーデンの小学校社会科の教科書を読む日本の大学生は何を感じたのかということで、明治大学の鈴木教授という方が、この北欧の政治のあり方などを研究されている本なんですけど、投票率85.8%の国スウェーデン、小学生に何を教えているのかということで、小学校のころからどうも日本とは社会科のあり方が違うんだという話を丁寧に説明している本、実際にそれをゼミで取り上げて大学生たちがところどころ自分と比べて、自分の子供だったころと比べて驚きの感想をところどころ差し挟んでいるという、とても読みやすい本なんですけど、そういう本の中におも

しろいデータが紹介されていて、若者に政治がとても関心が薄いという、よく言われている言説に対しての分析がちょっとイントロにあったんですけども、スウェーデンも日本も含めた7カ国の調査、これを内閣府は2013年にやっているんですね。我が国と諸外国の若者の意識に関する調査。これで、7カ国、13歳から29歳を対象に比較をしているんですが、今の自分の国の政治にどのくらい関心がありますかという質問に対して、「非常にある」「どちらかといえばある」を含めると、スウェーデンと日本だと、何と日本のほうが高い。それがとてもびっくりなんですね。その後、自分個人の力で政府の決定に影響を与えられないと思いますかという質問に対して、「そう思う」「どちらかといえばとそう思う」、日本は7割。スウェーデンはそれが低いんです。4割。なので、これは自分の行動が決定に対して影響を与えることができるかもしれないという可能性に対する期待感が違うんだと。だから、関心のレベルでいくと日本の若者も決してゼロではない。低くはない。ということで、それをどうやって生かすかという、むしろ社会のほうのあり方が問題なんだということがわかります。

これは、目先の関心、例えば気になる争点、消費税上げる、上げないとかね、町でも本当に目先の見えてる観点、そういう部分のレベルではなくて自分の行動と政治に対する関係という、すごく大きな何というか問題をはらんでいるなと思ったんですが、それをちょっと大きな話から、また町に話をちょっと戻すと、私、今回、町長選挙の間ちょっと見ていて、割合と若いお母さんでもすごく選挙に関心を持たれる方が私の周りにはちょっと目につきました。本当にその中では、子どもも一緒に若いお母さん行動しているので、子どもがそうすると選挙の車が回ってきたりすると、すごく何というかはしゃいで喜んでいる。僕も投票に行きたいみたいなことを言う子もいる。本当にそれは若い層に対する啓発が、もう本当に子供に直接影響を与えていくなという気がしています。なので、本当にこれ大事なことだなと思っているので、そこを何とか工夫してほしいなと思っているんですけども、何度も繰り返すように、町でやれることは本当に少ないんだというようなこと、それはもう本当にわかるんですけども。

これで一つちょっとまた、ちょっと通告がなかったけど教育のほうにもちょっと関係がするなと思って、私、6月の議会でもちょっと言及したんですが、子供や若者の社会参加に対する支援、例えば、町民大学などで若者向けの講座で、こういう社会的な政治的な分野の講師を呼ぶであるとか、何かできないか。町民大学で難しければ、各学校でのさまざまな何かの機会を使えないかというような、ちょっと質問をしたんですが、このことに関しては何か検討は進みましたでしょうか。

教 育 課 長 ただいまの御質問で、若者向けに社会的な政治の関心を持ってもらうような取り組みをとということでございますが、現在、今、御質問のありましたとおり町民大学とか図書館講座、そういったものでは政治に対するそういった講座は開催しておりません。中学校の教科書の中で公民というのがございまして、中学3年生がそれを学ぶものでございます。その中で、現代の民主政治と社会、選挙の仕組みと社会ということで、授業で学んでいるものはございます。こういった中で、選挙の大切さとか選挙制度につきまして理解をするような授業を進めておって、今、学んでおります。実践では、生徒会活動につきまして寄中学校・松田中学校、両校ともですね、選挙に対しまして、町の選挙管理委員会から記載台と投票箱を借りて、実際に選挙ってこういうふうにするんだというのを実践的にやっております。そこから、先生方が政治のことを話していただきまして、実際に教科でも学ぶんですが、選挙の仕組みというものを改めて教えているような状況でございます。もっと若い層をとということで、これは教科ではありませんので、総合的な学習の中で取り組んでいくべき題材だと思います。校長先生、よく話を聞き取りしまして、そういったものが取り組めるかどうか、今後検討していきたいと思っております。

1 番 平 野 ありがとうございます。難しい分野だと思います。これも教育には日本の場合は、これは教えるべき、教えてはいけないみたいなのがすごい厳しいので、でも、本当に少しずつでも子供たちの関心をそこへ向かわせていくような工夫が、ぜひ必要だと思います。それから、町長との対話のまちづくり座談会も、中高生と対話をするというような集会、何かお考えありますか。

町 長 ことしのですね、座談会につきましては、選挙があったということで、ちょ

っと1カ月ほどおくれて、また、予算編成に間に合わせたいということで、もう急遽立ち上げたような状態でありました。本来ならば、誰が町長であってもこの時期には座談会やらなきゃいけないというのはあるべきだと思っておりますので、そういった点では自治基本条例がしっかりとでき上がればですね、そういったのも必ずやっていくというふうなことになるかと思えます。その中で、子供たち、また生産人口の方々、高齢者の方々、我々も含めていろんな役割だとか、役割という表現もおかしいですけどね、やらなきゃいけないところの中でいくと、やっぱり今の小学校、中学生だとかっていう、また高校生の意見もやっぱり、しっかりと取り入れながらですね、やっていきたいというのは前から思っておったんですけども、今回については、ちょっとそういった面ではですね、予算に反映するといった分ではちょっと間に合わなかったのも、また、日程を踏まえつつですね、また、中学校も非常に忙しいというようなこともよく言われるので、できるところからですね、そういった低年齢の方々の御意見をいただくという機会は設けたいというふうには考えております。以上です。

1 番 平 野 ありがとうございます。これも、またちょっと大きな話になっていくんですが、2012年にユネスコが教育における最優先事項を2つ提唱しているんですが、持続可能な開発のための教育、それから地球市民教育というこの2つをお題目を出しているんですが、なかなか知られてなくて、ちゃんと文科省のホームページには出しているんですけども。松田の場合は、最初に言った持続可能な開発のための教育を、知らないながらも、意識はしていなかったかもしれないけれども、これはクールチョイスなどで一歩踏み出したというふうに、私はこれはすごいなと思っているところです。そして、この地球市民教育、これは教育がいかにして世界を平和的・包括的で安全な持続可能なものにするか、そのために必要な知識やスキル・価値・態度を育成していく教育というふうに定義されているんですが、こういった本当に大きなテーマではありますが、こういったことに対して、ちょっともし町長、何かお考えがあればお聞かせ願いたいんですけども。

町 長 今、御質問いただきました、非常によく私は横文字使ってるということで、

町民の方からもよく叱られるんですけれどもね、横文字の中で言うと、地球市民教育ですかね、多分、活字で言うとグローバルシチズンシップエデュケーションというような言葉になろうかと思えますけれども、本当おっしゃるように、その言葉自体と流れ自体は特別ユネスコさんのやつを真剣に勉強したわけじゃなくてよくわからなかったんですけれども、何となく肌感覚の中で、これからグローバル社会に向けた教育、そこは競争という意味合いでなくてつながるといようなことの中です、知らずというか、すいません勉強不足で申しわけなかったんですけれども、そういった意識を持って、今、国際交流を少しずつ始めてるといようなことでもあります。その点は、小さい子供たちがこれからの時代に伴ったところの中です、いろんな人権問題だとか人種差別だとか、いろんな戦争だとか、いろんなことがある中で、とにかくいろんな宗教とか国家とかいろんな文化とか違いはあるけれども、やはりみんな地球上に、さっきの地球という言葉をいただくと、地上に住む一つの人間としてです、そういうことがないようにいようなことも大きく言うところもあるのかもわかりませんが、まずは松田町としてできることは外国の方々とも一緒に、この、例えば地域づくりであったりだとか、いろんなさまざまな活動することによっての発想だとか、そういったことにつながるように思って、これから国のほうも英語の教科がまた一コマふえるだとかいうふうになってますから、松田町もおくれることなくです、今、進めさせていただいてるということにあります。今、平野議員から御指摘いただいたユネスコの関係の件につきましては、そういう意識を持ちつつ、幅広い範囲の中です、今後各所管、または教育委員会の皆さん方とです、まちづくりにどこまで反映されるかというのを検討しつつです、今度、総合計画を立てるときにも一つのキーワードになるかもしれませんので、そこは忘れずにです、忘れずに検討してまいりたいなというふうに感じましたので、感想も含めてお答えさせていただきます。以上です。

1 番 平 野 ありがとうございます。本当にこれはもう大風呂敷を最後に広げさせていただきましたけれども、本当、松田は知らない間に、本当に町長、今、このユネスコのことには知らなかったけど肌感覚でというのはね、すごい私印象に残りま

したが、既にこの環境に対する教育を踏み出し、そしてつながる、それからあと子供に対する国際交流事業などで、そんなことは知らなかったけど肌感覚で人種差別や戦争などをどうやって回避する、人間としてどうやってつながるといふ、そこを意識してるというような言葉が聞けて、私は本当にとてもうれいと思いました。本当に、こういった人類が共通に求めている理想に対する、何ていうかな、一歩ずつどうやって近づくのかというアプローチ、これが本当に出てきた数字が投票率という感じがするんですね。やはりそういったところで、今、民主主義ですから、本当に一人一人がかかわっていけるんだよと、町政にかかわっていけるんだよという、ここをベースにしていくような、それを若い人、子供、そこから底上げしていくような形で町の教育を何とか意識をしていって、そして町の事業も協働、そういったことがうまくいくように、ぜひ取り組んでいってほしいなと思っております。じゃあ、これは要望で終わりにいたします。ありがとうございます。

議

長 答弁はよろしいですね。以上で受付番号第8号、平野由里子君の一般質問を終わります。

暫時休憩といたします。本会議は午後2時より開催をいたしますが、休憩中に議会全員協議会を開催しますので、10時5分までに大会議室にお集まりを願います。

(9時49分)